

HopStepJump ⑥

授業づくり③

～ 道徳の授業づくり・道徳の時間について ～

<https://toyono-jinikyo.com/>

第5回初任者研修は、桃山学院教育大学・准教授の龍神美和先生から道徳の授業づくりについて交流や演習を交えながらご講義いただきました。前半の講義では、道徳教育の要である「特別の教科 道徳」の意味や読み物教材の分析方法について学び、後半にはグループで実際の教科書教材を使用して教材理解や指導案作成をする演習をおこないました。各グループで議論したことにも龍神先生からご助言いただき、授業の中での子どもたちの対話が思い浮かぶような具体的で実践的なお話をしていただきました。

～振り返りシートより～

- いつも教材研究をするとき、何から手をつけるかわからないことがありましたが、教わった、内容項目⇒主人公⇒場面分け⇒ねらい⇔中心発問の順で考えるとスムーズでした。何を子どもに教えたいのか、伝えたいのかをブレずにもち、子どもたちも悩んで考えることのできる授業をつくっていきたいです。
- 龍神先生は研修中に回りながら、「すごい」「なんで？」と声をかけていました。このちょっとした声かけで、うれしい気持ちになったり、考えるきっかけになったりするんだなと思ったので、2学期は自分の授業中でも意識して取り入れていきたいです。
- 道徳の授業をする立場になって、道徳教育と道徳の時間のちがいをとても強く感じていました。トラブルの仲裁の場面でも、クラス全体に何か伝える場面でも、子どもと関わる全ての時間に道徳的諸価値は含まれており、本当に心の教育、道徳教育は1時間にせずだと講義を通して改めて実感しました。
- 自分が発問に対しての答えを広く持っていないことや、生徒の意見に対して深めるための聞き方が不十分であるということに気がつきました。それを解決していく一つの手段として、教材を深めていく時に1人ではどうしても意見の偏りがあるので2人もしくは複数人で意見交換をして教材研究をしていくことがとても重要であると、研修中のペアワーク、グループワークを通して考えました。
- いつも授業をする時に手を挙げることをチャレンジと捉えてとどんどんチャレンジしようという声かけを多くしていましたが、龍神先生の「見ている人、聞いている人が発表者に値打ちをつける」という言葉で聞く側の大切さにも気づくことができました。今後は聞く姿勢についてほめるなど認める場を作っていきたいと思いました。
- 1つの文章の中に様々な「しかけ」があり、そのしかけをどう活かすかによって子どもたちが気づいたり、考えたりできる範囲も大きく変わるのだと思いました。2学期以降実際に授業をつくり、行う際には子どもたちの考え、意見をまとめ、授業を終わらせようとするのではなく、様々な考え、意見を互いに認め合い、理解できるような授業をできるように努めたいと思いました。

研修をきっかけに学び直すこと・考え直すことはたくさんあります。新しい知識や視点を獲得する機会でもあり、これまでの実践を振り返り、意見を交わすことで、自分の考えを整理するのも研修の機会ならではの事です。これまでの授業とも結びつけて課題や改善点を考えてみてください。気づけば初任者としての今年度も折り返しです。今後も研修をきっかけに、「子ども主体の授業」を追い求める学びを続けてください。

